

中間評価	事業名	児童養護施設退所児童等へのアフターケア事業		実施団体名	認定NPO法人子どもシェルターモモ		事業番号	H27-
	岡山市①	こども総合相談所	出原 晋一郎	岡山市②	こども企画総務課	宇野 弘靖	事業費	1,976,000
	団体責任者役職名氏名	西崎 宏美(専務理事)	西井 葉子(事務局員)	連携団体	NPO法人杜の家(代表者 大森 浩史)		補助金額	1,482,000
	記入者名			問合せ先電話番号	086-206-2423		支出経費 9月末概算	

番号	体制・進捗の評価	当初の目標に対する 現在(H27年9月30日)の状況	⇒ 現在の課題は何か	⇒ 課題に対する今後の対策 (今年度中のいつまでに何を行うか)
1	事業はスケジュールに基づいて実施されていますか？	・事業は当初の計画どおりに進行している。	・事業の状況、事務局体制ともに大きな不安要素はなく、今後もスケジュールどおりに進行できる予定。	
2	経費は概ね予算どおりに執行されていますか？	・(精査をする前であるが)人件費と交通費が当初の予定よりも大きくなっている。	・支援ニーズの発生や支援対象者を取り巻く状況の変化は予測しづらく、また予算内で対応できない事案を放置することもできない。 ・現時点から予算額を変更することはできないため、その他の支出を極力減らしつつ、ひきつづきニーズに対応していく。	・報告書の発行予算(20万円)を削減して人件費と交通費の補填に充てるが、精査後、報告書発行予算が確保できない状況であった場合は、迅速に担当課、センターと情報共有を図り、対策を検討する。 ・次年度以降は人件費と交通費を余裕をもって(今年度の実態と合わせて)積算する。
3	事業の進捗状況を関係機関等に発信し、積極的に連携を図っていますか？	・退所前学び事業(での講師)を通じて、様々な分野の専門家が児童や支援者の置かれた状況に対する理解を深めている。 ・アフターケア委員会に津山市のNPO法人が参加するようになり、支援対象や支援の幅が広がり始めている。	・何もないところからの就労支援に難しさを感じている。キャリアカウンセラーや中小企業家同友会の協力をあおぎ、支援者を広げていく必要がある。 ・家庭を持たない子どもならではの難しさがある。機会があっても信頼できる人が関与しなければ足を運ぶことは難しい。個別に信頼関係を築いていくしかない。	・中小企業家同友会へ次回以降のアフターケア委員会への参加を呼びかける。 ・必要に応じて杜の家の仲介により就労継続支援事業所の連絡会に参加する。
4	団体と担当部署間で事業目標を共有し、次年度以降の展開に向けて協議していますか？	・次年度は厚労省事業により継続的にアフターケア事業を実施していく予定。 ・仕様、予算は広島市で実施されている事業が基準になる見込み。現時点で仮予算は策定されているはずだが、財政局との折衝もあり、最終的な決定は来年1月末から2月初旬になると思われる。	・次年度事業の仕様、予算についてのすり合わせはできていない。子どもシェルターモモの希望や今年度事業の状況(人件費・交通費の不足など)もふまえて、申請内容を調整できるとよい。	・10月30日に子ども企画総務課と子どもシェルターモモが打ち合わせ(別件)をするため、その際に情報共有を図る。 ・以後、仕様等については調整が可能な範囲ですり合わせを行っていく。

	事業名	児童養護施設退所児童等へのアフターケア事業	実施団体名	認定NPO法人子どもシェルターモモ	事業番号	H27-
番号	事業に対する評価	当初の目標に対する 現在(H27年9月30日)の状況	⇒ 現在の課題は何か		⇒ 課題に対する今後の対策 (今年度中のいつまでに何をするのか)	
1	アフターケア相談所	<p>※当初の目標設定なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事会開催:11回 ・就労相談:のべ4件 ・生活相談:のべ270件 ・学習支援:のべ15件 ・金銭管理:のべ:132件 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者の確保と相談体制の整備。特に就労支援に関する知識と相談対応(指導ではなく傾聴)の経験を有する人材が不足している。 ・別事業にて相談対応などに協力して下さるボランティアを募集・養成しているが、活動時間が合わないケースが多い。 ・子どもシェルターモモ以外の施設を退所した若者の相談が少ない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア養成講座を通じて確実に理解者は増えている。今年度より「実践」を意識した内容にしているため、約20名の受講者に修了後の実践を促していく。現在、月・金に常駐者を置いている相談対応体制を月・水・金まで拡充することを目指す。 ・退所前学び事業などを通じてあらためて「アフターケア相談所えん」を参加者(児童、施設関係者)に周知する。 	
2	退所前学び事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「参加施設数10以上」に対して4施設 ・「参加者数各回20名以上」に対して平均9名 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が伸び悩んでいる。参加しやすい日時を事前に聞き取ったうえでスケジュールを調整したが、結果につながっていない。原因としては、移動(全回参加している施設は会場から近く、対象者(高校生)が自転車で通うことができるが、その他の施設は職員が送迎しているなど)の問題や部活動の時間との重なりなどがあると思われる。 ・昨年度の実績をもとに目標人数を設定したが、上記のような状況を予測できていなかった。目標とする人数の設定自体が適切でなかったことも考えられる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では今後の実施会場を変更することは難しく、また部活動の予定を把握し、避けることは難しいため、次年度以降の改善点として事前に各施設及び岡山市の協力を得て、対象者の人数をあらかじめ把握しておくことで適切な目標設定に努める。 	
3	関係者会議	<ul style="list-style-type: none"> ・厚労省「退所児童等アフターケア事業」の申請(平成28年度事業として)を目標としていたが第2回会議にて岡山市の申請の意向が確認された。そのほかにも岡山市内外の児童虐待支援に関連のある組織・機関と情報共有のための会議を開催している。年4回の実施予定に対して現時点で2回が終了している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では会議自体に明確な目標が設定されていない(情報共有を中心としている)が、今後は子どもの支援に関わる様々な組織・機関に参加を呼びかけ、協働事業の企画や政策提言の内容を検討できる場にしていきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・来年秋に岡山市で開催されるシェルターネットの全国会議にあわせて、子どもたちの現状や支援の必要性をさらに強力に発信していく。 	
	その他特記事項及びESD・市民協働推進センター等への要望	現 況	課 題		要望・対策(案)	
1	とくになし					